

小野ゼミとD

第8期生 島本 季依

昨日、東南アジアから帰ってきた。カンボジアでは、お腹を下しつつも、「牛井が食べたいなあ」と思った。牛井といえば、小野ゼミの活動の際に、その安さ・速さ・営業時間から、かなりの頻度で食べ、「もう食べたくない」と思っていた代物である。ケース発表前は、23時にロー棟グル学が閉館した後、幾度となく某牛井屋に通った。また、マンションのパーティールームにおける徹夜イベントでは、毎回のように深夜に牛井を買いに出かけたものだ。このように、「それを見ると小野ゼミの活動を思い出す」という食べものが、私にはいくつもある。かなり強引ではあるが、小野ゼミでの2年間で、そのうちで最も印象深い某ドリンク剤を絡めて振り返りたいと思う。

小野ゼミに入ってから飛躍的に摂取量が増えたものとして、牛井の他には某製薬会社のドリンク剤（以下D）が挙げられる（飲み物だが…）。グループワークの発表締め切り前、SASレポート提出前などの必需品となり、一人で進めていかなくてはいけないキュービックや卒論の中間報告前や締め切り前には、精神的な支えとして、無駄に消費した。特に卒論にかんしては、テーマや仮説設定の際、先生の質問に答えられず黙り込み、何度も先生を困らせ、自分としても心が折れそうになっていた。締め切り前には、丑三つ時まで先生に添削をして頂き、Dを片手に、眠気と戦いながら修正を行った。しかし、その翌日の本ゼミで、先生の机にDの空瓶を発見し、どうしようもなく申し訳ない気持ちになったことを覚えている（先生、本当にご迷惑おかけしました…）。小野ゼミの活動から、「ピンチの時にドリンク剤を飲む」という習慣ができ、今もいち消費者として製薬会社に貢献している。ちなみに、そんなこんなで蛇行を極めた卒論だったが、12月25日、クリスマスの朝にもかかわらず、先生が相談の時間を設けてくださり、9期マケ論メンバーに交じり何度も添削をして頂いたうえで、何とか完成することができた。これは、私にとってこれまでで最高のクリスマスプレゼントとなった。そして、ここで食べたマロンクリームのカリスピーククリームドーナツの味は一生忘れないだろう。

私は、不出来な小野ゼミ生であったと思う。そのため、多くの人に迷惑をかけ、多くの人に支えてもらってきた。ここで、あらためて同期、後輩、先輩、先生に感謝の言葉を述べたい。のみこみが悪く、SASやディベートに追いつけない私を常に助けてくれた同期、先輩として頼りない私に絡んでくれた9期、こんな私を小野ゼミに入れてくださった7期の先輩方、卒論やキュービック、ケース、ディベートなどにおいて鋭いアドバイスを下さった院生の先輩方、ぐずぐずと進みの遅い私を、時に厳しくも温かく最後まで指導して下さった小野晃典先生、2年間本当にありがとうございました。

2月に控えている台北へのゼミの卒業旅行でも、「小野ゼミと食べ物」の思い出をたくさんつくりたい。